

## 令和元年度下半期 地域ケアセンター会議 実施状況一覧(石神井圏域)

地域包括支援センター名称	日時	参加者(関係機関等)	参加者数	テーマ/目的	検討結果
練馬ゆめの木	令和2年1月22日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、高齢者食事サービス事業所、介護サービス事業所、生活支援員、社会福祉協議会等	55人	【テーマ】 ご高齢者の権利養護 制度やサービスについて ～発見・気づきから、地域に出来ること～ 【目的】 地域で活動されている関係者が高齢者権利養護の制度やサービスの特徴、状況・環境に合わせた支援の選択を学び、発見・気づきから地域に出来ることを参加者が一緒に考える機会とする。	・ほっとサポートねりまの専門員に講義をお願いし、成年後見制度や任意後見、身元保証などについて学び、グループワークを行い理解を深めた。 ・「地域での見守り・気づきから、つなげていくことが大切と感じた。」 ・「多くの関係者で見守る体制を作りたい。」 ・「地域と専門職との話し合いはこれからも必要である。」等の意見があった。
高野台	令和2年1月21日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、ボランティア団体、介護サービス事業所等	32人	【テーマ】 地域に「みち・きいて・つながろうプロジェクト」が広まるためにできること 【目的】 高野台地域包括支援センター担当地域で活動されている関係者や各機関と地域課題の発見や情報共有を行うことでネットワークを構築し、地域包括ケアシステムの確立をめざす。	・「みち・きいて・つながろうプロジェクト」について理解を深めるとともに、課題について地域住民目線での把握を行った。 ・「現役世代、子育て世代に周知した方がよい。」 ・「高齢者だけでなく家族もまるごとの視点での課題に目を向けたい。」等の意見があった。 ・地域や家族のつながりが希薄になっており、再度地域の見直しをしていくことの重要性が確認できた。
石神井	令和2年1月22日	民生児童委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所、薬局、郵便局等	47人	【テーマ】 高齢者虐待の現状と対策 【目的】 虐待の現状や定義を理解するとともに地域で活動する方々の役割を知り、地域での見守りネットワークの構築を図る。	・虐待ケースを発見したらどのように対応するか、また普段どのようなことを心がけて見守りをしているかについて、グループワークを行った。 ・「セルフネグレクトという言葉を知り、通報の判断基準についても理解できた。」 ・「地域で見守ることの重要性を再認識したが、認知症への知識をさらに深めていく必要がある。」等の意見があった。
フローラ石神井公園	令和元年11月26日	民生児童委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所、配食サービス事業所、薬局等	26人	【テーマ】 私のいないところで、私のことを決めないで 【目的】 ご本人の気持ちを大切に、より自分らしく過ごせるような支援をゲームを通じて学ぶ。 地域の方と交流を深め、地域のネットワークづくりの場を提供する。	・「私のいないところで、私のことを決めないで」をキーワードに、うまくご本人の気持ちを引き出し「自己決定」できるように支援することについて検討した。 ・「もしバナゲーム～もし自分が余命1年と言われたら」のカードを活用して、グループワークを行った。 ・「自分の家族でも終末期のことは聞きづらいので、もしバナゲームを通して聞いてみたい。」等の意見があった。
第二光陽苑	令和2年1月21日	民生児童委員、介護サービス事業所、はつらつセンター、社会福祉協議会等	23人	【テーマ】 身寄りのいない高齢者が安心して地域で生活するためには 【目的】 地域課題の共有を行い、参加者の視点から問題解決に向けたアプローチやプロセスを考える。	・社会福祉協議会ほっとサポート練馬による「成年後見制度や日常生活自立支援事業について」の講義とグループワークを行った。 ・「本人に今後の生活についての意向を確認しようとしても、聞き取るまで信頼関係を築くのに時間がかかる。」 ・「賃貸アパート等の契約時に本人が亡くなった後に片づけや葬儀、墓の用意などについても見通す仕組みなども必要だと考える。」等の意見があった。
関町	令和元年11月29日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、ボランティア団体、医療機関、薬局、介護サービス事業所等	38人	【テーマ】 『最期まで自分らしく』をかなえる支援 ～人生の最終段階もその人らしい暮らしを～ 【目的】 最期まで自分らしく暮らす地域包括ケアの実現のため、生活に根差したアドバンスケアプランについて様々な事例をもとに地域の関係者と一緒に考えてみる。	・「ACP(アドバンスケアプランニング)について」の講義とグループワークを実施した。 ・「元気なうちからACPについて話し合う機会を持つことの大切さを再認識した。」 ・「本人に関わるそれぞれの人が、本人の言葉や思いをチームに戻し、チームで情報共有することが大切である。」など、ACPについては立場を超えて関心が寄せられていることが分かった。
上石神井	令和2年1月22日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、介護サービス事業所等	51人	【テーマ】 話題のハッピーエンディング、まずは自分で考えてみよう ～もしバナゲームを活用して～ 【目的】 ACPについて理解するとともに、もしバナゲームを行うことで、終末期に何を大事にして過ごしたいと感じるのか、どう感じるのかを自身で疑似体験し、終末期を考えるきっかけとする。	・「余命1年と宣告された場合、あなたは何を大切に過ごすのか。」という想定で、「もしバナゲーム」を体験した。 ・「具体的に余命が残り少ない時に自分はどんな風に考えるのかを知る機会になった。」 ・「個々人の考えの違いがあると感じた。」等の意見があった。 ・このゲームを知ったことで、終末期を迎える方へのアプローチや家族と気軽に将来を考えるきっかけになったと感じる。

## 令和2年度上半期 地域ケアセンター会議 実施状況一覧(石神井圏域)

地域包括支援センター名称	日時	参加者(関係機関等)	参加者数	テーマ/目的	検討結果
練馬ゆめの木	令和2年9月 書面開催	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、高齢者食事サービス事業所、介護サービス事業所、生活支援員、医療機関、薬局等	67人	【テーマ】 新型コロナウイルス感染症への対応について 【目的】 新型コロナウイルス対応に関するアンケートを配布、意見を募り、その集約を各所にフィードバックする形で地域の実状や課題を共有する。	・感染拡大の始まった3月以降、活動への影響や課題について共有した。 ・「高齢者は感染防止への意識が高い代わりに引きこもりになっている。」「支援者側が訪問するのにリスクを感じてしまう。」「大幅な患者・利用者の減少に見舞われるなど、事業運営への影響は大きい。」「これまでの対面式とは違った形での連携も考えていくことも必要(町会、民生委員等)」等の意見があった。
高野台	令和2年7月28日 令和2年8月28日 令和2年9月16日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、ボランティアグループ、介護サービス事業所等	52人	【テーマ】 「地域での暮らしを話し合う」～新型コロナウイルス感染症での生活の変化・今後備えていくことなど～ 【目的】 高野台地域包括支援センター担当地域で活動されている関係者や各機関と地域課題の発見や情報共有を行うことでネットワークを構築し、地域包括ケアシステムの確立をめざす。	・新型コロナウイルス感染症に伴う生活の変化や工夫していることを共有した。 ・「買い物等への外出を控える方がいた。」「家にこもっている方が多い。」「施設を利用できず集える場所が無い。」「普段から地域での見守りが大切である。」「デイサービスを自粛することで筋力低下、認知症の進行が見受けられた。」「地域づくりの大切さを改めて感じた。」等の意見があった。
石神井	令和2年8月 書面開催	民生児童委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所等	37人	【テーマ】 新型コロナウイルス流行による日常生活への影響や困り事を把握し解決に向けて地域で取り組めることを検討 【目的】 新型コロナウイルスの流行に伴い、地域住民や高齢者が生活上で困っていることを把握し解決に向けて地域で取り組める対策の検討を行う。	・新型コロナウイルスの流行に伴う地域の課題把握と対策の検討を行った。 ・社会交流が減った、感染への不安、新しい生活スタイルへのストレス、身体機能の低下、介護の仕事上の密になることへの心配等が課題としてあがった。 ・感染への不安から外出を躊躇される高齢者等に、フレイル予防に関する周知を如何に行っていくかが今後の課題である。
フローラ石神井公園	令和2年7月 書面開催	民生児童委員、町会・自治会、介護サービス事業所、薬局、敬老館等	17人	【テーマ】 新型コロナウイルス感染症に伴う影響等の現状把握 【目的】 コロナウィルスの現状を把握しコロナウィルスについての正しい知識を身につける。地域の方と交流を深め、地域のネットワークづくりの場を提供する。	・コロナウィルスについて疑問点、各事業所の現状、今後の課題などアンケートや電話での聞き取りを行った。また、それぞれの現状や課題について今後の具体的な取組みを検討した。 ・訪問は難しいため電話対応となったことで、利用者が「大丈夫」と話しているも実際は心身が弱っている等の事例が確認された。 ・地域包括支援センターや医療機関、介護事業所は、自分たちを守りながら、どう高齢者の支援を継続していくかが課題である。
第二光陽苑	令和2年9月17日	介護サービス事業所等	17人	【テーマ】 住み慣れた地域でできるだけ住み続けたい ～介護・地域住民との連携、関係構築に向けて～ 【目的】 地域課題の発見、地域課題を共有し、解決に向けた検討を行う。	・支援者と地域住民との連携、関係構築に向けて検討を行った。 ・「小学校がある地域では、小学生、父兄は、地域の高齢者を知っている可能性があるため、小学生を対象に認知症サポーター養成講座等を実施してはどうか。」「日頃より、地域の集まりや会合等に参加し、地域の高齢者の情報収集、相談できる体制を構築してはどうか。」等の意見があった。
関町	令和2年8月 書面開催	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、ボランティア団体、医療機関、薬局、介護サービス事業所等	56人	【テーマ】 地域の防災～備えて活かす～ 【目的】 地域でどのような防災への備えが行われているか「自助・互助・共助・公助」の考え方をもとに情報共有し、地域の意見集約を行う。	・「地域の防災～備えて活かす～」をテーマにアンケートを実施。「日頃からの備え」「避難場所と経路の確認」「在宅避難」等について意見が多かった。 ・「自治会への加入率をまずは上げていきたい。」「防災への住民意識の向上は数年単位。ここまで来るのに5年かかっている。」という町会・防災会の言葉をしっかりと受け止め、防災について一緒に取り組ませていただく一歩となった。
上石神井	令和2年8月4日	民生児童委員、町会・自治会、コンビニエンスストア、医療機関、薬局、介護サービス事業所、介護保険課等	27人	【テーマ】 新型コロナウイルス関連対策のこれまでと、これから・・・ 【目的】 地域のケアマネジャーと事前打合せにて、新型コロナウイルス関連対策の困難さの相談が多数あり。どのような対策が必要か、実践的に考える機会とする。	・新型コロナウイルス感染対策について、医療機関や行政からの情報提供を実施した。 ・事前の準備会合で感染予防の観点から、参加者は会場定員の3分の1程度とし、募集は介護・施設関係者のみに案内、さらに1事業所1名の参加に限定し実施することとなった。 ・次回は地域の民生児童委員等にお声をかけて、感染予防対策を図りながら、継続して開催していくこととする。